

第2回米百俵賞受賞

(平成10年6月15日表彰)

スタニスラヴァ・シュラムコヴァ

(チェコ共和国)



母国チェコの青少年に日本の文化・武道を紹介し、両国の相互理解を促進するため、「日本武道文化センター」の建設に奔走した。

■受賞時プロフィール

13歳の時に空手を始めると、日本の武道へのあこがれが募り、平成2年5月、23歳の時に会社秘書の仕事を手を捨て、シベリア鉄道と船を乗り継いで来日。知人の紹介で、東京都板橋区の剣道場「久明館（きゅうめいかん）」の内弟子として居候を始めた。

以来、毎朝6時に起床。60畳ある道場のぞうきんがけから始まり、警視庁などへの出稽古や1日1,000回以上の素振りをこなし、1994年には剣道3段に合格。剣道以外に居合道と杖道（じょうどう）各3段、弓道2段、さらに書道、茶道、華道に着付けもこなす日本文化の達人である。

日本における剣道の修練を通じ、その精神に触れた彼女は、「故郷に本当の日本を紹介したい」という夢を抱き続けてきた。この夢は実現へと向かい、チェコの青少年に本当の日本を紹介し、チェコ共和国と日本の相互理解の発展に尽くすべく、ハラデツ・クラロベ市に「日本武道文化センター」の建設を進めてい



▲希望が丘小学校にて（ながおか市政だより平成10年7月号より）

る。また、既に日本から交流のため、人材の派遣も行われている。

日本武道文化センターの建設運動は、一橋大学剣道師範の中倉清氏、東京都剣道道場連盟会長の中村鶴治氏が建設基金カンパの発起人になり、クラロベ市も建設用地として約 1,650 m²の土地を提供。スタニスラヴァ氏は、資金調達のため、連日、講演や説明、実技指導で国内外を奔走しながら、「ヨーロッパ中から来て

もらって、泊まり込みで日本を学べる場所にしたい」と夢を膨らませている。

構想では、板張りの道場をつくり、日本の武道を紹介、指導する。雅楽、茶道、折り紙などの教室、イベントが開ける会議室といったスペースも設けたいという。

(注) 日本武道文化センターは、その後資金不足により建設が中止され、最終的に市の決定で撤去された。



▲日本武道文化センターの完成予想図（ながおか市政だより平成 10 年 7 月号より）